令和８年度第１回慢性腎臓病（ＣＫＤ）予防対策部会
議事概要

１　日時
令和８年９月２５日（金曜日）１８：３０～

２　開催方法
Teams によるオンライン開催オンライン

３　出席者
〈委員〉（敬称略）
内田　治（一般社団法人埼玉県医師会　常任理事）
雨宮　守正（さいたま赤十字病院院長補佐・部長）
竹田　徹朗（獨協医科大学埼玉医療センター・教授）
〈事務局：健康長寿課〉
課長：福田　和有、副課長：畠中　達弘、主幹：田中　由香
主査：島根　淳、主事：長谷川　真衣

４　議事
（１）内容１　慢性腎臓病（ＣＫＤ）予防対策部会について
ア　事務局から説明（資料１）
イ　質疑、意見等
・竹田委員
　取組を進めていくには目標設定が重要と考える。指標については、全国レベルの目標に基づいた埼玉県での目標を掲げるべきであり、一人でも減ればいいというわけではなく、全国と同じく 10%の減少を目指すべきと考える。
　普及啓発や研修、病診連携についての取組についても「やりっぱなし」になってはいけない。それぞれの取組において具体的な目標を掲げた方がよいのでないか。
・事務局
　数値指標については、今すぐに変更するということは難しいが、次期計画の策定の際に意見を踏まえて検討していきたい。
　普及啓発等の取組の成果については、すぐに成果を把握していけるようなものから検討してまいりたい。
・雨宮委員
　現状が分かるデータの整理が必要である。透析患者数の推移や取組の成果について数字で分かるように整理していただくと、活動がしやすくなる。
・竹田委員
　ＣＫＤの認知度は低い。そのため、啓発については、高血圧や糖尿病、心臓病に合併していることがほとんどのため、循環器や糖尿病のイベント等でも「ついで」として腎臓病の啓発物品を置いていただくなど、少しでも目に触れるよう取り組んでいただきたい。

（２）内容２　埼玉県の現状

ア　事務局から説明（資料２）※資料２は非公開

イ　質疑、意見等

・雨宮委員

　導入年齢は上がってきているのか。ＣＫＤ対策の成果としては腎臓が悪くなるスピードが遅くなることである。導入年齢が高くなっていることが成功の指標になるため、こういった数値を経年で見ていってもらいたい。

・竹田委員

　透析患者数を行政が把握できる情報としては身体障害者手帳の取得状況がある。この身体障害者手帳の取得状況が≒透析患者数に相当する。可能であれば、市区町村別の交付状況を経年変化で示していただけると、各地域の状況が見える。

・内田委員

　ＣＫＤ対策において重要な情報となるため、データの収集について事務方にお願いしたい。

（２）内容３　令和８年度普及啓発等の取組について

ア　事務局から説明（資料３）

・事務局

　慢性腎臓病（ＣＫＤ）に係る知識や発症予防に関する普及啓発、特定保健指導の保健指導者に対する研修等を実施する予定である。ついては委員の方々に御指導、御協力をお願いしたい。

　※　啓発ラジオを雨宮委員、県民向け動画セミナー、スキルアップ研修会講師を竹田委員が務めていただくことで決定。

イ　質疑、意見等

・雨宮委員

　研修のアンケートについては、その後フィードバックするような機会があるとよいのではないか。結果を提供いただくだけでなく、何らかキャッチボールできるよう検討していただきたい。

・竹田委員

　研修参加者がその後どのように職場や地域の労働者にアプローチできたのか、そうした波及効果をアンケートで取っていただけるとよい。

・内田委員

　各市町村で行われている研修の状況は把握しているか。

・事務局

　毎年、各市町村等に対してＣＫＤの取組の実施状況について調査をしている。次回の部会でお示しできるよう整理していく。

・内田委員

　北足立郡市医師会では医師向けの勉強会、地域の総合病院との連携による紹介シートの作成や年１回の住民向けＣＫＤ研修会を行政とも連携し行っている。こういった情報を把握し、整理していただきたい。

・事務局

　毎年の調査は幅広く取組の調査を行っているものであるので、来年度の調査に向けて、項目や対象を検討していく。